

H I V（エイズウイルス）検査を受けましょう！

エイズ（後天性免疫不全症候群）は、H I V（ヒト免疫不全ウイルス）に感染することで徐々に免疫力が低下し、引き起こされる細胞性免疫不全状態を主な病態とする病気です。

現在は、治療法が進歩しており、H I V感染がわかった段階で早期に治療することで、エイズの発症を抑え、H I V感染前と変わらない日常生活を送ることができるようになりました。

日本でも、多くのH I V感染者の方が、就労等社会生活を送っていらっしゃいますが、そのためには、H I V感染を早期に発見する必要があります。しかし、日本では、エイズ発症の段階で、H I Vに感染していたことがわかるケースが全体の約3割を占めています。検査を受け、早期にH I V感染を知ることができれば、無症候のうちに、症状が軽いうちに、早期治療につなげることができます。

<症状>

H I Vに感染しても、すぐに症状は現れず、自然経過は感染初期（急性期）、無症候期～中期、エイズ発症期の大きく3期に分けられます。それぞれの時期の症状等は、次のようになっています。

- (1) 感染初期では、発熱や倦怠感などの風邪に似た症状がみられることもありますが、自然に消失します。
- (2) 無症候期は、数年から10年以上続く場合もありますが、個人差があります。（無症候期の間も、H I V感染症は進行します）
- (3) エイズ発症期では、免疫力低下をきたし、「^{ひよりみ}日和見感染症」にかかるようになります（カンジダ症やニューモシスチス肺炎など）。日和見感染症に悪性リンパ腫やカポジ肉腫などを加えた23疾患がエイズの診断指標として定められています。

<感染経路>

性的接触（本県では全体の8割以上を占める）、血液感染、母子感染

<主な予防対策>

適切な避妊具（コンドーム等）の使用、不特定多数との性的接触を避ける 等

（※ピルは避妊には有効ですが、H I Vを含む性感染症を予防することはできません）

<本県におけるH I V感染者及びエイズ患者の発生状況>

令和5年1月から12月末までの期間において、H I V感染者（無症状病原体保有者）が2名、エイズ患者4名の届出がありました。平成元年からの累計では、H I V感染者72名、エイズ患者45名、計117名となっています。

<検査の状況>

2021年は、全国的に、新型コロナウイルス感染症の影響による保健所等での検査控えで検査件数が減少したと考えられていますが、2022年以降は検査件数が増加。コロナ禍以前の水準にはいまだ達していませんが、回復傾向にあることが予想されています。

（全国）

	保健所等における検査数	H I V感染者届出数	エイズ患者届出数
2021年	58,172	717	306
2022年	73,104	625	245
2023年	106,137	669	291

（青森県）

	保健所等における検査数	H I V感染者届出数	エイズ患者届出数
2021年	285	4	4
2022年	291	1	1
2023年	458	2	4

<参考>「青森県 STOP AIDS」（青森県庁ホームページ）

https://www.pref.aomori.lg.jp/welfare/health/top_aids.html